

平成 27 年度 北杜市健康づくり推進協議会委員委嘱式  
及び第 1 回北杜市健康づくり推進協議会会議録

- 1 審議会等会議の名称：第 1 回北杜市健康づくり推進協議会
- 2 開催日時：平成 27 年 7 月 10 日（金）午後 7 時から午後 9 時 25 分
- 3 開催場所：北杜市役所 西会議室
- 4 公開・非公開の別：公開
- 5 傍聴人の人数：1 人
- 6 議 事
  - (1) 健康づくり推進協議会の役割について
  - (2) 第 2 次北杜市健康増進計画及び北杜市民の様子について
  - (3) 子育て世代包括支援センターについて
  - (4) 平成 26 年度事業実績及び平成 27 年度事業計画について
  - (5) こうのとり支援事業について
  - (6) その他
- 7 出席者 委員 10 名  
吉田和徳 津金永二 藤森 勇 小泉明美 福田すみ江 栗沢和江  
船木 良 原かつみ 深澤久美子 坂本正輝  
  
事務局 10 名  
平井 光市民部長 浅川辰江健康増進課長 中田はるみ指導監  
企画予防担当 長田恵美子 興水 秀子 堀内真理子  
保健指導担当 廣瀬佐智子 中田貴美子 増山さゆり 武井勇介
- 8 欠席者 4 名  
日向三郎 今井久志 清水謙雄 功刀孝次郎
- 9 署名録委員 藤森 勇 船木 良

—午後7時20分開会—

(1) 健康づくり推進協議会の役割について

【事務局】資料 No. 1 で説明

【議長】ご質問ありますか。

異議なしの声

【議長】質問が無いようですが、また最後の方で出してください。

(2) 第2次北杜市健康増進計画及び北杜市民の様子について

【事務局】資料 No2, 3 で説明

【議長】質問ありますか。

【委員】悪性新生物とはがんの総称の事でいいですね。

【事務局】はい

【委員】合計特殊出生率が低すぎますが原因は何と考えますか。

【事務局】もともと20代～30代の結婚して子供を産む人口が少ないこと、統計は取っていませんが、未婚の方が多く、高齢化も20年進行していることなどで、出産できる年齢の方が少ないことが一番影響していると考えます。

【委員】高齢化や未婚者が関与しているという事ですか。

【事務局】直接関与しているとは言えませんが、若い世代が少ないということになります。

【委員】合計特殊出生率は、ある年齢から出すものですが、その人口が少ないということですか。

【事務局】20代は転出していて少なくなっています。

【委員】がん検診の受診率が50%以下ですが、個人的には健診をしています。個人で人間ドックを受診している人は資料に入っていますか。

【事務局】個人で受診している人は把握ができないため、データには入っていません。

【議長】市民健診の申し込みを全員が記入して返してくれれば正確な受診率がわかるということになりますね。

【議長】よろしければ次に移ります。

(3) 子育て世代包括支援センターについて

【事務局】資料 No. 4 で説明

【議長】質問ありますか。

【委員】質問ではなく感想ですが、北杜市はセンターの充実、小児科の整備、医療費の無料化等子どもを産む環境は素晴らしいと思いますが、環境は整っていますが対象の産む人がいないというのが少子化の問題です。環境が整ってなくても産む人は産むと思

ますが、違うところに原因があるのかと思います。

【議長】子どもがたくさんいた時代はどうしていたのかと考えます。今、子どもを産まなくなってきたか産めなくなってきたのか、以前初産が29歳くらいだったのが、産婦人科医からは40歳～45歳の方が出産するという出産の年齢が上がってきているようです。何かの書物から高齢化で支えるものの人口が減ってきたと言っているのは、日本、ドイツ、イタリアだそうです。いずれの国も第2次世界大戦で敗戦した国です。日本が高齢化・少子化だといっている中、北杜市は日本の最先端をいっているとなると日本の規範となっています。また、父親世代は兄弟が多かったようです。師範学校までは親が責任を持っていたが、北杜市だけの問題ではないが、一人に掛かる教育費が多額という事も理由になるのかとも思います。

【委員】私事で言うと、1人は公立大学生、1人私立大学生でかなり教育費はかかります。私たちの世代は大学に進学した人が多く、かなりの人が子どもには大学進学を描いていると思います。

【議長】少子化の問題は謎が解ければと思いました。

【委員】子育てより、違う魅力を個人が持ち始めているのではないのでしょうか。

【委員】特殊出生率が1.13人ということですが、支援体制は市をはじめかなり整っているが、ハード面での体制ができていないのかなと思います。北杜市に魅力を感じ、自然を求めて定住を理想にと転入してくるが、その先の住宅や自動車の用意がないとなるとお金が掛かる。都会のような住みやすい環境ではないので、ハードとソフトがしっかりしているというバックアップ体制があると、子どもを1人から2人3人と出産していくのではないかと思います。

【事務局】時間も少なくなってきましたので次の議題に移っていただきたいと思います。

【議長】では、次の議題に移ります。

#### (4) 平成26年度事業実績及び平成27年度事業計画について

【事務局】資料No. 5, 6で説明

【議長】膨大な資料で内容が豊富でなかなか難しいです。どなたか質問はありますか。

【委員】こころの健康対策について、44人が相談に来て、27人が面接という結果ですが、評価してあるようですが支援体制が確立できない理由を含め、事業を具体的に説明してください。

【事務局】3年間県の事業とタイアップし、医療機関と連携し総合健診の中でK6という鬱予防の6項目により医療機関に繋げていく事業です。面接会場に足を運んでもらう体制をとりましたが、なかなか出向いてもらえなかったため、直接電話連絡し受診につなげていきました。11月に受診した割合が高かったため、今年度は11月にターゲットを絞って関わっていく予定です。小中高の命の勉強は、思春期体験事業として、保健師と外部講師によりほとんどの小中学校で実施しています。その中では保護者にも一緒に聞

いてもらい実施することになっています。

【委員】人間ドックを受診した人のフォローアップはどのようになっていますか。

【事務局】委託した医療機関5か所で実施しています。再勧奨してくれるのは1医療機関で、担当でもフォローアップの確認は他業務との関連で実施できていない状況です。

【委員】総合健診の受診者は市が関わっていることがわかりますが、人間ドックを受診している病院からは、その後どうですかということがないので聞いてみました。

【議長】人間ドックは午前中受診し、午後簡易結果を伝えて、正確な結果は後日の様です。市民健診でも結果は後日のようですので同じでしょうか。折角受診したのであれば最後まで取り組んでほしいですね。

【委員】精検受診者への指導が十分できていないと感じました。例えば精検になった人が何人いて、受診者が何人いて、その後がんになった人というものが年代別にまとめてありますか。北杜市の様子から胃がんの死亡率が高い割に胃がん検診の受診者が少ないが、胃がん検診の受診者が増えると胃がんが減るのか、単純に思いましたがどのように考えているのかお聞きしたい。

【事務局】がん検診については、保健福祉推進員さんや食生活改善推進員さんには、総数としてのデータを出していますが、年代別にはあるが経年で見ることができていません。今後はデータヘルスの面からもやっていきたいと思っています。

次に、胃がん検診の受診者が増えれば胃がんの人が減るのかということですが、標準対象者から受診者を算出しています。実際は社会保険の方なども受診しているので、受診率は高いと感覚的には持っています。

【委員】健診の希望調査では、どこで受けるのか回答がきますよね。

【事務局】回答率が4割です。

【委員】分析は大変ですが、たとえ4割であっても推計できると思うので、分析した方がいいのではないのでしょうか。

【議長】ありがとうございました。他になければ次に進みます。

#### (5) こうのとりの支援事業について

【事務局】資料 No. 7 で説明

【議長】具体的な内容について質問ありますか。

【委員】新しい命については、いい例で市の政策で大勢の人が転入するきっかけになる制度になるのではないかと思います。財政面で許されるのであれば国より狭める必要はないと思います。

【委員】実施43歳以上の人がいましたか。

【事務局】46歳の方がいました。平成27年度現時点では13名から申請しています。20代は1~2名であり35歳以上の方がほとんどを占めています。

【委員】所得制限は調べましたか。実際所得制限を設けた場合、何人の方が所得制限にか

かってくるのかを教えてください。

【事務局】現要綱では所得制限がないので調べていません。何人かは県の事業で所得制限にかかり、市の事業のみの方がいます。

【議長】感想や意見をお持ちの方はいるとは思いますが、北杜市の有識者で検討してもらいたいような難しい内容です。希望者が少なくても問題ですが、日本中から転入者がくるような事業になればいいです。

【委員】今まで43歳以上で妊娠した人はいらっしゃいますか。

【事務局】この事業を受けて43歳で出産している方は毎年1,2名いますが43歳以上では難しいです。治療されている方はいますが母子手帳を交付し出産に繋がった方は43歳以上では難しいです。43歳で妊娠された方はいます。

【委員】この事業を受けてですか。

【事務局】治療をしても妊娠する確率が低いとなると、お母さんたちの決断が難しいと思います。医療機関では年齢制限を設けているところもあり、市としても国に沿って動向を見ていく必要があると思います。

【委員】データをしっかり出して検討した方がいいでしょう。

【委員】43歳の年齢制限は女性に限りますか。男性が43歳以上で奥さんが若いとだめですか。

【事務局】この事業は女性だけです。

【委員】女性だけではなく男性にもあってもいいのではないのでしょうか。

【事務局】平成25年に実施された事業仕分けの中でも、北杜市は年齢制限や所得制限を設けていないことが問題であったり、その後山梨県よりそれらを設けた方がいいのではないかと指導を受けました。平成28年度に国が改正を受けることを受け、北杜市でも年齢制限を設けた方がいいのではないかと、市の助成は43歳と区切った方がいいのではないかと、吉田先生や津金保健所長は医師という立場からご意見を頂戴しました。この場で皆さんの率直なご意見を伺えればいいと考えています。

【委員】しっかりとしたデータがないと意見をすることができません。

【議長】国では相当なデータから分析し、決定していると思うので、北杜市でも専門家の意見を聞きだして、最終的に決定したらどうかと思います。

【事務局】先ほど栗沢委員から、男性もというご意見がありました。山梨県でも男性への助成制度を検討しているようです。北杜市としましても財政課を交え検討してまいります。

【議長】なければその他の項に移ります。

## (6) その他

【事務局】資料No.8で説明

【議長】その他に何かありますか。

【委員】人間ドックや総合健診を受けていて病気が発見され治療ができるということですが、健診を受けていなくて病気になってしまったら、あきらめがつかないが、健診を受けていて病気になってしまったのならあきらめることができます。健診は日常生活の上で重要なものだと感じました。市民の方に健診を受けてもらうというところに力を注ぐべきだと感じました。

【議長】以上で議事を終了します。

【副会長】長時間ありがとうございました。健康という事を改めて感じ、市の方でも検討していただけたと思います。今後もよろしくお願い致します。

—午後9時25分閉会—

署名録委員 氏名

氏名